

JHATニュース

Japan Hemodialysis Assistance Team in Disaster

日本災害時透析医療協働支援チーム

No. 1

2017年9月

編集：JHAT 広報部

発行：JHAT 事務局

Website : <https://jhat.jp/>E-mail : info@jhat.jp

設立趣旨

2011年3月11日金曜日といえば、誰もが「東日本大震災」(以下、3.11)が起きた日として記憶に新しいことと思います。しかし、1995年1月17日火曜日と聞いて「阪神淡路大震災」を思い浮かべる人が、どれほどいるでしょうか。人の記憶は曖昧といわれますが、阪神淡路大震災の経験は、16年後に起きた東日本大震災に確かに活かされ、特に日本透析医会災害時情報ネットワークによる災害時情報伝達は、迅速な支援活動に大きく寄与したこととして根付きました。災害時における透析医療には、このような情報ネットワークが必須の機能であり、情報を活かすことに大きな意義があります。

現在、東南海広域、首都圏直下型の地震が危惧されており、その被害規模は、3.11 遙かに超えるものと予想されています。3.11での経験がそのまま通用するとは思えませんが、これまでの経験してきたことを次の災害に活かすことこそ、被災された方々や不幸にして命を落とされた方々へ報いる唯一の道であろうと考えます。

今回、透析医療における災害時情報網をさらに拡大し、縦横無尽の情報共有と支援活動を目指し「**日本災害時透析医療協働支援チーム：JHAT** (Japan Hemodialysis Assistance Team in disaster)」を設立しました。ここにJHATの活動内容をご紹介します関係各位の賛同、協力をお願いする次第です。

JHATは、

- 1) 災害時透析医療において、日本透析医会災害時情報ネットワークによる災害時情報伝達システムを最大限に活用する
- 2) 構成団体は、日本透析医会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会、日本血液浄化技術学会及び、本提案に賛同する透析医療関連協力団体(企業)とする。
- 3) 被災後における透析医療継続、再開に向けた迅速、円滑な情報収集(先遣隊、情報コーディネーターなどによる情報収集活動)、透析医療業務支援、物資の供給、などを行う。
- 4) JHAT 隊員として個人の職種、氏名を明示し、被災地における不審者と見なされることなく積極的な活動を行う。

以上のような趣旨により災害時における医療支援、支援物資供給センター設置などを迅速に行って参ります。
(事務局長 山家敏彦)

JHATに期待すること

東日本大震災においては、約1万人の透析患者が自施設で透析を受けられないという事態が発生しました。しかし、被災地の医療者の連携により、「患者が透析を受けられない」という事態にほぼ陥らせることなく対応することに成功し、この連携は特に行政等各方面から高い評価を受けた一方で、様々な課題も浮かび上がりました。

東日本大震災では広域停電という致し方ない事情があったとはいえ、情報共有に不十分な点があったことは否定できない事実でした。また、被災地に直接透析スタッフが赴き、疲弊した被災地のスタッフを支援した事例はあったものの、支援側が組織化されておらず、本当に必要な場所に必要な支援ができたのかという反省がありました。そこで、日本透析医会災害時情報ネットワークを中心とした、災害対応に関わる関連団体の実働部隊として2015年に組織されたのがJHATです。

JHATの役割は大きく分けて二つあります。一つは被災地の情報収集です。被災医療者は急性期対応の時点では、目の前の対応に追われるため、支援地域へ発信する余裕がありません。また東日本大震災では広域停電のため、情報発信自体に物理的障害がありました。このような状況では支援地からなるべく早期に被災地に入り、急性期の被災地の情報を収集し、支援地域に発信することが極めて重要となります。

もう一つの役割は亜急性期の被災医療施設の支援です。急性期には被災患者に対する医療提供が中心のミッションになりますが、被災後数日で医療施設の状況が正常化しない場合、疲弊した被災施設のスタッフの支援は必須となります。

2016年熊本地震の時点ではJHATはできたばかりでしたが、状況を鑑み隊員を募り被災地に送ることを決定しました。幸い通信障害がほとんどなく、急性期の被災地の情報収集の必要性は大きくなかったものの、被災医療施設のスタッフの支援には大きな力を発揮しました。

とはいえJHATはまだ組織としては未熟な部分がたくさんあります。JHATを育てるのは、災害対応スキルに優れた隊員です。過去の経験に学びマネージメント能力を高めていく必要があります。お互いに高めあい、いざという時に仕事ができるJHATを一緒に作り上げられれば幸いです。

(日本透析医会 山川智之)

JHAT ホームページが出来ました！

JHATのホームページでは、設立趣旨や活動要綱などが掲載されております。また、隊員専用ページも出来ており、色々な情報共有をしていきたいと考えております。

詳しくは
<http://jhat.jp>



第1回 JHAT研修会 報告

2017年7月15日～16日に第1回JHAT 隊員養成研修が東京工科大学蒲田キャンパスで開催されました。

参加者は85名と酷暑の中、多くの方に参加していただきました。隊員登録していただいた方で、この研修会を受講した方を優先的に被災地に派遣する予定となっていますので、よろしくお願いいたします。

内容は、座学（講義）と机上訓練（グループディスカッション）の二本立てで、講義は主に、東日本大震災や熊本地震で被災され支援を受けた経験のある施設さんとJHATやDMATで支援に赴いた方々の生々しい経験談でした。机上訓練では、本部と参加者がメールをやりとりし、被災地に派遣されるまでの流れを体験していただきました。また、被災地で支援を受ける施設側の立場も体験してもらうことで、支援に必要な心構えを学んでいただきました。

参加者からは、「実際の経験者の話を聞いて経験しないとわからないことが多いことが分かった」「災害支援って何かカッコイイなあとと思ってたら大間違いで、そんな華やかなものじゃなく、知らない土地いきなり行っても出来ることは限られていると思った」「いかに支援先に迷惑がかからないよう配慮することが必要だと言うことが分かった」等の感想をいただきました。



机上訓練の主な内容

- ・ 通信確保訓練
- ・ グループLINEの構築
- ・ 情報共有の重要性
- ・ 震度から被害状況を想定
- ・ 災害モードへの切り替えの重要性
- ・ 被災地では、自己完結の原則

JHAT研修会に参加して

「天災は忘れた頃にやってくる」という格言があるように、正にそれは突然やってきます。私が透析医療に関わるようになってから現在に至るまで、阪神淡路大震災(1995)、十勝沖地震(2003)、新潟県中越地震(2004)、能登半島地震(2007)、新潟県中越沖地震(2007)、岩手宮城内陸地震(2008)、東日本大震災(2010)、熊本地震(2016)など、誰もが予想だにしなかった大規模災害が、これだけ発生しております。

私は、これら震災を身近で体験したことは一度もなく、深刻な被害状況をメディアやインターネットを介して知る程度、実際に被災地では、何が起きているのか?何を必要としているのか?どのようにすれば手助けができるのか?突然の出来事に、全てがパニックを起こしている様相の中、詳細を知る術などあるわけもなく、遠くから見守ることくらいしかできませんでした。

ボランティア経験すらない私ができることと言えば、個人的に多少の募金や物資を送る程度、災害拠点病院での勤務経験はないため、当然のことながらDMATなどに参加できるような資格やスキルも持ち合わせておらず、被災地へ出向くどころか、遠方であったため被災者の受け入れにも関わっておらず、一医療者として何か出来なかったのかと常に葛藤しておりました。

そんな中、JHATが設立され、熊本地震では、被災地域の透析施設への派遣医療ボランティアを募っておりましたが、急を要する募集であったためか、内容が明確に伝わってこず、勤務施設の調整や

第1号 (4)

準備も間に合わず、何の協力をする事ができないまま、1ヶ月ほどで支援活動が終了してしまい、残念でなりません。今回の震災以降、JHAT 本部事務局より「活動趣旨が十分に周知されていなかったことから、混乱をきたすようなことになってしまった」と声明が出され、派遣ボランティアの件以外にも活動がスムーズに行われなかったことが伺えました。

その反省点を踏まえた体制強化の一環としてなのか、第1回目となる JHAT 隊員養成研修が開催されました。これで大手を振って手助けができる喜び勇んで、告知と同時に早速、申込みをさせていただきました。隊員登録の申し込みと同時に、勤務施設長の承諾書の提出も義務付けられているため、事前に「いつでも支援に行ってもよし」というお墨付きをいただいたようなもので、非常にありがたく思っております。

研修は、座学(講義)と机上訓練(グループディスカッション)の二本立てで、講義は主に東日本大震災や熊本地震で被災され支援を受けた経験のある施設さんと JHAT や DMAT で支援に赴いた方々の生々しい経験談を拝聴。机上訓練では、仮想被災地を設け、刻々と変化する状況や本部からの情報を基に、インターネットや様々な情報機器を駆使しながら、次の行動予測をグループでディスカッションしながら各自の足りない部分に気づき、今後の準備に必要な情報を集めていくというもの。遠目で見えて感じていた時とは大きく異なり、これから初めて支援に赴く者にとっては、考えを改めさせられる内容でした。

この研修で得た知識を持ち帰り、支援する側またはされる側の双方を想定して、事前準備に活かすことが重要であると痛感いたしました。また、グループディスカッションや研修初日後の懇親会で、参加者同士の”顔の見える”関係を築く機会を与えていただきましたので、今後も横のつながりを密にし、継続的に情報や知識の共有を行う場を設けていければと考え、同じ地域の登録隊員が集い、独自に JHAT 地方会を発足する動きもあります。ようやく災害医療支援に関わることができるようになったことを誇るだけに留まらず、突然の災害に対してもスムーズな支援活動ができる体制作りにも全力で関わっていき、今回の研修に留まらず、常日頃から心構えと準備を怠らないよう努めていく所存であります。

(クリスタル橋内科クリニック(北海道) 臨床工学技士 西方 健一)

JHAT 隊員募集中

日本災害時透析医療協働支援チーム「JHAT」では、活動の中心となる JHAT 隊員を募集しております。

JHAT 隊員の業務は、先般の熊本地震でも活動しましたように、①先遣隊(現地調査隊)、②業務支援、③支援物資供給を三本柱として活動いたします。また、これらの業務を行うにあたり、JHAT 隊員の育成活動に加え、顔の見える関係を築くことを主目的として、平時における事前準備活動も行っております。

ご応募に際しては、別項の「隊員登録申請書」に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。

詳しくは [http:// jhat. jp](http://jhat.jp)

「構成コア4団体」 日本透析医会 日本血液浄化技術学会 日本臨床工学技士会 日本腎不全看護学会	【発行】 JHAT 事務局 神奈川県厚木市下荻野 1030 神奈川工科大学 K4号館 407号室
JHAT 会報 No.1 2017年9月発行	FAX 045-330-6863 Web https://jhat.jp/ E-mail info@jhat.jp
日頃の活動、ご意見・ご感想などございましたら、 「 info@jhat.jp 」事務局までメールにてお願いいたします。	